

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成25年度農作物病害虫発生予察情報について

平成25年度農作物病害虫発生予報及び半月報を発表したので送付します。

平成25年度農作物病害虫発生予報第2号

平成25年5月15日  
徳島県

I. 果樹  
カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生圃場率は6.3%、発病度は0.01であり、平年(5.6%, 0.1)並の発生である。
- (2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生は認められていない(平年同時期は発生圃場率が3.8%、発病度が0.01)。
- (2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行ない、その後1ヶ月、または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率は12.5%、発病度は0.01であり、平年(44.4%, 0.2)よりやや低めの発生である。
- (2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。

(2)風当たりの強い園では防風対策を講じる。

#### ヤノネカイガラムシ

##### 1) 予報内容

発生時期 平年より遅い

##### 2) 予報の根拠

(1) 5月14日時点において、県予察圃場での第1世代幼虫の初発生は確認していない(平年：5月15日、前年：5月21日)。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。

#### ミカンハダニ

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率は25.0%、寄生葉率は1.9%であり、平年(42.1%、6.8%)よりやや低めの発生である。

(2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

#### ナシ

##### 黒星病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.9%、発病葉率が0.3%、発病果率が0.1%)。

(2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、初期防除に努める。

#### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は75.0%、寄生新梢率は5.9%であり、ほぼ平年(49.7%、5.1%)並の発生である。

(2) 5月10日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量は少ない、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 果樹共通

##### 果樹カメムシ類

##### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)  
発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査において, ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月27日)より早い4月24日に, 上板町では5月9日時点では認められていない。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より早い4月16日に, 上板町でも平年(4月27日)より早い4月24日にそれぞれ初誘殺を確認した。
- (2) 5月10日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 気温は平年並, 降水量は少ない, 日照時間は多いと見込まれており, やや発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2013年	2012年	2011年	2010年	平年	2013年	2012年	2011年	2010年	平年
5.1	0	97	0	12	20	0	13	0	23	39
5.2	0	166	2	57	60	0	54	10	70	72
5.3		53	59	6	37		34	7	0	77
5.4		71	25	381	123		14	3	138	54
5.5		49	6	126	78		15	3	81	50
5.6		170	1	10	95		4	6	1	19
6.1		75	28	33	38		15	5	14	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2013年	2012年	2011年	2010年	平年	2013年	2012年	2011年	2010年	平年
5.1	0	22	0	2	8	0	4	0	1	19
5.2	0	22	3	10	26	0	20	12	6	42
5.3		3	8	0	8		31	11	0	42
5.4		7	0	61	45		14	5	13	19
5.5		4	0	124	49		3	5	17	19
5.6		17	0	3	31		3	0	1	10
6.1		4	10	47	16		5	2	1	5

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無

発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。